



土岐地区まちづくり広報

第73号

令和6年8月

# とぎめき

## 躍動する土岐地区の皆さん

- ◎夏花壇の花苗が配付されました
  - ◎園児と児童が花壇に夏花の苗を植えました
  - ◎土岐地区の住民パワーで堤防が美しくなりました
  - ◎瑞浪北中学校で体育大会が開かれました
  - ◎土岐小6年生が修学旅行へ行ってきました
  - ◎第45回瑞浪市主張大会が開かれました
  - ◎市長と語る会が開かれました
- 【こらむ探訪と再発見】 懐かしの「土岐川をどり」



写真：櫻堂薬師鶴池のハス（令和6年7月撮影）



## 夏花壇の花苗が配付されました

5月16日(木)、夏花壇用のペゴニア・サルビア・ニチニチソウ・バーベナ+花用肥料が、公共花壇を管理する団体で花苗を希望される団体へ配付されました。

花苗がすくすく育って、土岐地区の夏花壇が色とりどりに飾られる日を楽しみにしています。



## 園児と児童が花壇に夏花の苗を植えました

6月4日(火)、桔梗幼児園横の土岐川河川敷のひろがり花壇に、年長園児と土岐小の1年児童が夏花壇苗を植えました。毎年、退職公務員連盟瑞浪支部の皆さんの指導で花苗の植え付けを行っています。土岐川河川敷の花壇は、大雨が降ると泥をかぶりやすいだけに、花苗が元気に育ってくれることを祈ります。



「綺麗に大きく育ってね」、一苗一苗に願いを込めて植えました

## 土岐地区の住民パワーで堤防が美しくなりました

6月2日(日)、早朝から多くの市民が参加して「第48回土岐川河川清掃」(主催=土岐川を美しくする会みずなみ)が、瑞浪市内の土岐川などで行われました。

土岐地区は、明德橋から名滝橋の間の堤防の草刈りなどの清掃活動を行い、多くの地域住民が参加して土岐川堤防がとても綺麗になりました。

今回の土岐川清掃には、昨年、まちづくり事業として実施した「草刈り女子育成教室」の修了生34人のうち10人が参加し、堤防の草刈り作業に取り組みました。草刈り女子のメンバーは、土岐小学校に集合し、胸に「93」(くさ)と描かれたおそろいのTシャツを着て活動しました。水野光二市長の激励を受けながら、土岐小学校前の堤防沿いで草刈り作業に集中しました。

この日の草刈り作業に参加した女子メンバーは、5月18日(土)に益見の土岐川堤防で実施された電動草刈機の補習授業に参加して腕を磨いたメンバーでした。土岐地区の住民パワーに感動しました。



沢山の住民参加があり、瞬間に堤防が綺麗になって行きました



見事に草刈機を操って堤防を美しくする草刈り女子の皆さん



草刈り女子の皆さんは、5月18日開催の草刈り女子教室の補習授業で、さらに草刈機の扱いを向上させ、土岐川清掃に備えました



## 瑞浪北中学校で体育大会が開かれました

5月24日(金)、暑すぎるくらいの素晴らしい晴天に恵まれ、瑞浪北中学校では体育大会が開かれました。団体種目を中心に、学級の仲間づくりの体育大会でした。沢山の親御さんの応援を受け、心を一つにして取り組む生徒の姿には勝っても負けても多くの拍手が湧き上がって、心温まる体育大会になりました。特に、最後の全校種目「(各団)選抜リレー」は大変に盛り上がりました。



これぞまさに「青春」といった生徒の熱中する姿

## 土岐小6年生が修学旅行へ行ってきました

土岐小学校の6年生が、5月22日(水)・23日(木)の一泊二日で、奈良・京都の修学旅行へ行ってきました。

奈良東大寺では、希望者が柱に空いた大仏の鼻の穴と同じ大きさの穴をくぐったり、奈良公園では移動する鹿の群れに出会うなどめったにできない貴重な体験もできました。

思い出に残る、笑顔いっぱい歴史いっぱいの修学旅行でした。



奈良東大寺にて



京都清水寺にて

## 第45回瑞浪市主張大会が開かれました

6月16日(日)、総合文化センターで瑞浪市主張大会が開かれました。土岐地区からは、土岐小学校6年生の玉川芽依(たまがわ めい)さんと瑞浪北中学校3年生のモベラ ミキさんが発表しました。

玉川さんは「ゴミを道路などに捨てる人を許せない」と環境への思いを「私たちにできること」と題して力強く語りました。モベラさんは両親の国の文化と生活している日本の文化の間で生活する「サードカルチャーキッズ(TCK)」であることの誇りを「質問 - 『どこの出身ですか』』という題で発表しました。



「ゴミのポイ捨ては許せない」と熱く語った土岐小学校の玉川さん



モベラさんの主張は瑞浪市の最優秀賞に選ばれ、7月の東濃大会(原稿・動画による選考)の評価も高く、8月の県大会の出場が決定しました

## 市長と語る会が開かれました

6月17日(月)、防災センターで「市長と語る会」が開かれました。第一部は、水野光二市長よりこれからの10年間の市行政の主軸となる第7次瑞浪市総合計画が語られました。計画の最重点は「安心して子どもを産み育てられる環境づくり」が掲げられ、子育てに関わる手厚い支援を行うことが語られました。また、第二部では土岐地区の今後10年間の計画として、若い世代に土岐地区の素晴らしさを味わってもらう活動に力を入れることが発表されました。

終盤には、市長より、大湫地区の井戸水等の濁水に関わるJR東海への市の申し入れについての説明もありました。



第7次瑞浪市総合計画を熱く語る水野光二市長



# 懐かしの「土岐川をどり」

「土岐川をどり」は、昭和24（1949）年に初披露されました。瑞浪市制20周年（1974）の記念事業として「瑞浪市民の歌」とともにレコードが作成され市民にも頒布されました。

作詞は、主な著書に「土岐川上郷1・2巻（昭和39年～）」「明治百年史」「瑞浪の歴史」「目で見える百年史」などがある瑞浪の郷土史家の佐藤実（さとうみのる）さん。作曲は、有名な作曲家、中山晋平（なかやましんぺい）さんです。中山さんの作曲には有名な童謡『シャボン玉』『てるてる坊主』『あめふり』『雨降りお月』『証城寺の狸囃子』『こがね虫』『あの町この町』『背くらべ』『まりと殿様』『砂山』『肩たたき』『あがり目さがり目』などがあります。

かつて、東濃では盆踊りではこの土岐川をどりは必ず踊られたものでしたが時代の流れで衰退していました。瑞浪美濃源氏七夕まつり50周年（2009）記念事業では、かつて東濃一円で踊られた土岐川をどりの復活をめざし、原曲の再生と並行して現代風にアレンジした総踊り曲「あのな～し♪」を制作し普及を図りました。10年後の第60回（2019）の七夕まつりで地元のバサラチーム「MAIYA」（マイヤ）と中京学院大学附属中京高校保育クラスの2・3年生ら約65人が、「土岐川をどり」を披露しました。

コロナ禍が明け、夏祭りの盆踊りも復活の傾向にあります。瑞浪発祥の土岐川をどりが各地で盛んに踊られる日を夢見ています。



作曲家 中山晋平さん



市制20周年記念レコードのジャケット



作詞家の佐藤実さんの民謡教室で使われていた土岐川をどりの楽譜

## 「郷土再発見」

### 木ノ暮地区

#### ずいがんざんしんこうじ せきどう 瑞巖山信光寺と石幢



鶴ヶ城の城主、延友三郎兵衛尉信光（のぶともさぶろうひょうえんこう）が永正元年（1504）神笹村字稲葉（とうのむらあざいなば＝現在の中京学院大学のある場所）に「稲葉寺（いなばじ）」を建てましたが、武田・織田の戦いで焼失しました。

その後、現在の場所に信光の名を取って「信光寺（しんこうじ）」が再建され、顕孝大和尚を迎えて開山始祖としました。本尊の十一面観世音菩薩は慶長12年（1607）に安置されました。境内には寛文二年（1662）に建立された瑞浪市有形文化財指定の「石幢（せきどう）」があります。